
実務ワークショップ報告

平成30年度実務ワークショップ 「コレクションにおける人材育成 ～技術や知識をどのように継承していくか」

日本微生物資源学会実務担当小委員会

森 史（国立研究開発法人国立環境研究所微生物系統保存施設（NIES））

林 将大（岐阜大学研究推進・社会連携機構微生物遺伝資源保存センター）

押田祐美（国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センター（JCM））

埋橋志穂美（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構遺伝資源センター（NARO））

浜田盛之（独立行政法人製品評価技術基盤機構・NBRC）

坂本光央（国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センター（JCM））

実務ワークショップでは、これまで寄託と分譲に関する問題や品質管理等に関する数多くのテーマを取り上げてきた。カルチャーコレクションでは微生物株の収集・保存・品質管理・提供を大きな柱として活動しており、実務での悩みは尽きないためである。一方で、保存株を維持し活動を支えるのはコレクションに携わるスタッフとそのスタッフが継承してきた技術に他ならない。そこで今回は人材育成をテーマとして、7つの保存機関の先生方に、株保存の技術や知識をどのように後継者に継承していくかについてご講演頂いた。それぞれのコレクションの紹介と共に、メンバー構成やスタッフ交代に伴う人材育成の在り方や方法、株の特性等に関わる情報や知識をいかに継承していくか、そして人員が限られている中での省力化や日々努力・実践していることをご紹介頂くことで、コレクション相互の情報交換を図り、親睦を深めることを目的とした。

限られた短い講演時間の中で、また内情についてなどの話しづらいテーマ設定だったかもしれないが、先生方には現場での人員配置や課題などを具体的にご紹介頂き、各機関の体制の違いや固有の問題など、また人材確保に関わる問題、技術補佐員の雇用期間や財源問題など、普段はなかなか聴くことができない話題をご提供頂いた。講演の後の意見交換では、業務のマニュアル化をどこまでやるのか、その有効性についての議論やコレクションにおける業務と研究の両立についての議論等も行われた。本ワークショップが、実務の向上やコレクション間での交流のきっかけとなることを願ってやまない。

末筆ではあるが、快くご講演を引き受けてくださった7機関の先生方、発表を代読してくださった埋橋志穂美先生、そして本ワークショップに参加された皆様に厚く御礼申し上げます。

注：実務ワークショップはカルチャーコレクションの実務担当者へ情報提供などを行うことを目的として企画され、文書管理・情報管理・品質管理・コンプライアンスなどもテーマとして取り扱っています。



左より，矢口貴志先生，村松由貴先生，早乙女梢先生，工藤卓二先生，川北龍司先生，青木孝之先生

概要

大会名：日本微生物資源学会第25回大会

日時：2018年6月14日（木）9：10-10：40

場所：国立環境研究所大山記念ホール

- W-1 農業生物資源ジーンバンク微生物部門の運営とコレクション業務の分担，技術・知識等の継承方針
青木孝之（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構遺伝資源センター（NARO））
- W-2 広島大学における菌株保存事業の経緯と技術継承における現状と問題点について
川北龍司（広島大学大学院先端物質科学研究科分子生命機能科学専攻微生物遺伝資源保存室（HUT））
- W-3 理研 BRC-JCM における人的資源と技術の継承
工藤卓二（国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センター微生物材料開発室（JCM））
- W-4 FMRC の概要と TUF C コレクションの運営体制
早乙女梢（鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター（FMRC））
- W-5 NBRC の人材育成
村松由貴（独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター（NITE・NBRC））
- W-6 千葉大学真菌医学研究センターの病原真菌コレクションの現状と課題
矢口貴志（千葉大学真菌医学研究センター（IFM））
- W-7 玉川大学学術研究所菌学応用研究センター～大学附置機関としての役割と課題
石崎孝之（玉川大学学術研究所菌学応用研究センター（TAMA））

（敬称略）